

141-1 蔵と水の街 栃木を歩く(7.0km)

江戸時代より例幣使街道の宿場町として、また舟運で栄えた問屋町として、北関東の商都と呼ばれ、蔵と水の街として知られる栃木をふらりと散策する。

日光に至る例幣使街道が通る栃木の宿は、東照宮に参拝する西国の諸大名も通り、賑わいを見せた。この例幣使街道の一部が今の中心街をなす大通りや嘉右衛門町通りであり、その両側には黒塗りの重厚な見世蔵や、白壁の土蔵群が残り、当時の繁栄振りを偲ばせている。また、蔵の街として知られる栃木市は、江戸時代から市の中心部を流れる巴波川（うずまがわ）を利用した交易によって栄えてきた。市内には、江戸、明治、大正とその時代を語り継ぐ歴史的な建造物が数多く残されている。

有名な「深川の雪」の依頼主が栃木の善野家であることや、市内の定願寺でお披露目された記録があることから、歌麿と栃木の関係の深さが注目を浴びて、今年で4回目を数えるのが歌麿まつりである。



塚田歴史伝説館辺りの巴波川

【道順】

栃木駅→ヨハネ館→巴波川（うずまがわ）・うづま公園→遊覧船発着所・塚田歴史伝説館→幸来橋→横山郷土資料館・県庁堀→とちぎ蔵の街美術館→山車会館→例幣使街道・毛塚紙店ほか→とちぎ蔵の街観光館→第2公園→神明社・近龍寺→山本有三ふるさと記念館→例幣使街道（嘉右衛門町通り）→岡田記念館・翁島→油伝味噌→新栃木駅

【街歩き解説】

巴波川（うずまがわ）：「ウズを巻き、波を立てて流れる」という意味に由来するという。巴波川は、明治時代に堤防が築かれる以前はたびたび氾濫し、橋をかけても2年ともたな

いと言われたほどであった。氾濫を鎮めるために人柱を立てたという「巴波川悲話」伝説があり、それは塚田歴史伝説館などで紹介されている。

一方で中世から江戸川と通じた舟運の盛んな川で、周辺には蔵造りの建造物が多く残り「蔵の街」として親しまれている。舟運の始まりは、江戸時代に徳川家康の霊柩を久能山から日光山に改葬した際に、日光御用の荷物を栃木河岸に陸揚げしたことが始まりであるという。その後、物資の集散地として江戸との交易で隆盛を極めた、現在の栃木巴波川には鯉が放流されており、船頭による舟歌が楽しめる観光用の舟（部賀舟（べがぶね））が用意されている。

日光例幣使街道：徳川家康の没後、京都から日光東照宮へ幣帛を奉納する勅使が通った道のこと。元和3年（1617）、徳川家康の霊柩が日光山に改葬され、その後正保3年（1646）からは、毎年京都の朝廷から日光東照宮への幣帛（へいはく）を奉納する勅使（例幣使という）がつかわされた。その勅使が通る道を例幣使街道と呼んだ。

例幣使は、京都から中山道を下り、中山道の倉賀野宿を起点として、楡木宿で壬生通り（日光西街道）と合流して日光坊中へと至る。楡木宿から今市（栃木県日光市）までは日光西街道壬生通りと共通になる。「日光例幣使街道」（「例幣使街道」）を現在の地名で栃木県日光市からたどると、鹿沼市、栃木市、佐野市、足利市、群馬県太田市、伊勢崎市、高崎市に至る路線となる。

この例幣使街道の一部が、今の栃木市の中心街をなす大通りや嘉右衛門町通りであり、その両側には黒塗りの重厚な（店舗・住居を兼ねる）見世蔵や、白壁の土蔵群が残り、当時の繁栄振りを偲ばせてくれる。

山本有三（1887-1974）：『路傍の石』などで知られる文豪山本有三は呉服商の子として現在の栃木市に生まれる。高等小学校卒業後、父親の命で一旦東京浅草の呉服商に奉公に出されるが、一度は逃げ出して故郷に戻る。上級学校への進学を希望したが許されず、結局家業を手伝うことになる。

この頃、佐佐木信綱に新派和歌を学んだ。その後、母の説得で再度上京。正則英語学校、東京中学に学ぶ。1年の留年を経て一高を卒業し、東京帝国大学独文学科に入る。

在学中から「新思潮」創刊に参加し、卒業後、文壇デビュー。真実を求めてたくましく生きる人々の姿を描いた。一高時代落第後に同級となった菊池寛や芥川龍之介らとは文芸家協会を結成し、内務省の検閲を批判する一方、著作権の確立に尽力した。1934年（昭和9年）に共産党との関係を疑われて一時逮捕され、『路傍の石』が連載中止に追い込まれるなど軍部の圧迫を受けた。のちに帝国芸術院会員、参議院議員、文化勲章を受章した。

山本が愛した東京都三鷹市の西洋式の屋敷と庭園は、1996年（平成8年）に改装されて三鷹市山本有三記念館として開館している。

栃木市の山本有三ふるさと記念館には、愛用の椅子や回転書架、帽子、服、自筆の原稿や映画化時のポスターなどが展示されている。記念館自体は江戸末期に建てられた見世蔵を整備・開館したもので、複数の蔵を繋げたような作りになっていて、建物自体も興味深いものである。

【昼食など候補】

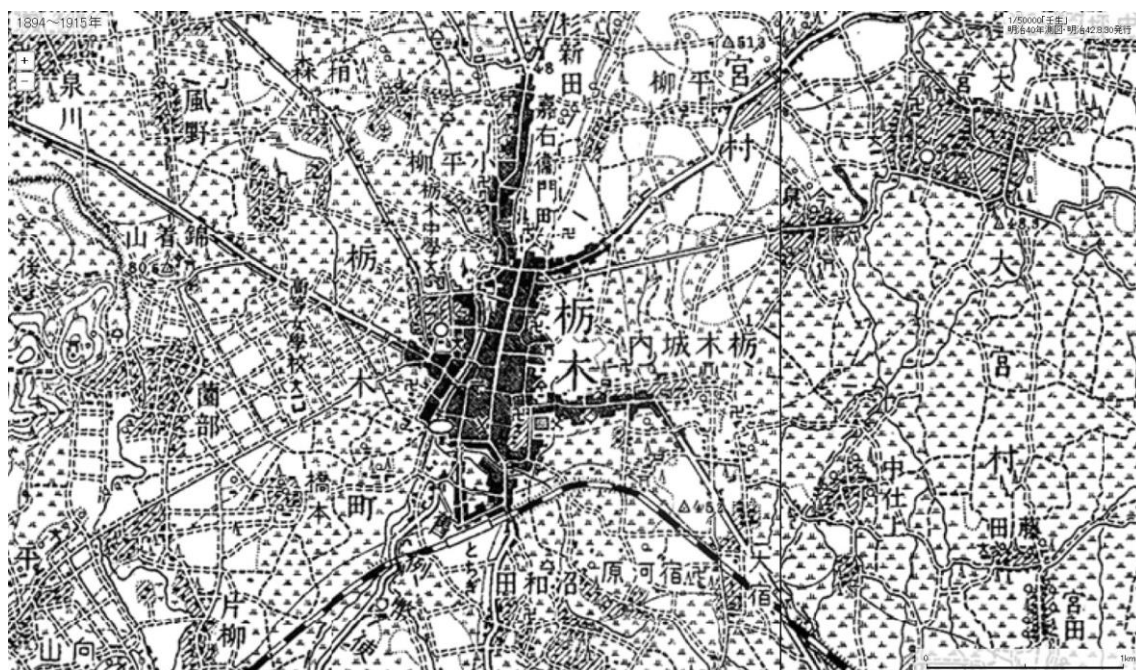
栃木乾杯ダイニング くらしく：蔵造りの店でランチをする。栃木県栃木市万町 4-1（蔵の街観光館内） 0282-22-3815

手打ちそば処 太郎庵 ふく田：蕎麦を食べる。栃木市万町 4-1（とちぎ蔵の街観光館内）0282-25-1241

洋食赤城亭：シックな店でサービス満点の洋食を食べる。（旭町 25-5）0282-22-0360

油伝味噌：創業天明年間の味噌屋店舗の一角で味噌田楽を食べる。

栃木市嘉右衛門町 5-27 0282-22-3251



M42年

栃木市は、栃木県の南部にある人口約16万人の市。栃木県内人口は宇都宮市、小山市に次ぐ第3位。市街地には蔵造りの家屋が並ぶ街並みが保存されていることから小江戸、小京都、関東の倉敷などと呼ばれ、観光地としての人気も高い。江戸時代には、利根川水系の巴波川を利用した舟運により、江戸方面と今市・日光・足利など内陸方面とを結ぶ物資の集積所となり、商都として栄えた。

1871年（明治4年）の廃藩置県を経て、栃木県が設置され、同県の県庁所在地となった。こうした歴史的背景もあって、明治期の地図からは陸水の交通網の発達や教育施設の充実

S52 年

ルートマップ (別掲 pdf)

**** オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu ****